

S S T L

職場参加ニュース

NO. 81 23. 7. 24



職場参加からさぐる
地域共生

開催しました！

～支援現場からのレポート～

就労継続支援B型事業所
せんげん台「世一緒」
谷崎恵子



定期総会そして記念シンポ 職場参加からさぐる地域共生

6月18日(日)午後1時から、越谷市中央市民会館でNPO法人障害者の職場参加をすすめる会2023年度定期総会を開催しました。総合司会は埼玉障害者市民ネットワーク代表の野島久美子さんが務めました。開会にあたり尾谷代表理事から、初代の故鈴木代表理事と同じ障害者を雇用する事業主という立場で「職場参加」に関わることの重要性をかみしめているとの挨拶がありました。

続いて、地元越谷市の福田晃市長から、障害の有無に関わらず共に働くことは地域での自立と社会参加にとって重要であり、当市も障がい者計画で「分け隔てられることなく共に育ち共に働き共に暮らすことのできる地域社会」をめざしてゆくと力強い挨拶をいただきました。

事務局より本日の総会は正会員総数の3分の1以上の出席があったので有効である旨報告された後、議長選出を諮り、NPO法人共に生きる街づくりセンターかがし座理事長の吉田久美子さんと、NPO法人障害者自立センターめだか事務局長の原和久さんが議長に就任し議事に入りました。

まず、事業報告は例年の通り、議案の読み上げはせず、活動に関わっている障害当事者たちから、順番に一言報告を行う形で行いました。決算、監査報告、事業計画、予算等については、担当者から要約を述べ、それぞれ承認、ないし決議されました。

今年の総会では、法人の定款の「目的」、「事業」の中に、「啓蒙」という語があり、「遅れている人たちに教え諭す」といった上から目線の表現なので「啓発」と改める提案があり、承認を求めたところ満場一致(書面評決を含む39名)で可決されました。今年度の定期総会の後、休憩を挟み総会記念シンポ「職場参加からさぐる地域共生」を開催しました。

総会記念シンポジウム 「職場参加からさぐる地域共生」 —障害福祉サービス参入から5年

越谷市障害者地域適応支援事業から22年 いま発信し考えあう

シンポジスト: 谷崎恵子さん(サービス管理責任者)、松尾晃史さん(就労定着支援員)、日吉孝子さん(障害当事者、本部事務局)、沖山稚子さん(相談支援事業責任者)

コーディネーター: 朝日雅也さん(埼玉県立大学名誉教授)



朝日

今回のシンポジウムの目的としては、NPOの20数年間の活動を踏まえ、大きな環境の変化に対応してゆくため、基本の職場参加、地域社会の構築へ向けて、いま何ができるかについて対話ができればと思っています。まず、谷崎さんからお願いします。

障害重くても職場参加、地域参加 谷崎

せんげん台「世一緒」の利用者のほとんどが、重度や重複の障害があります。家から出てくるところから始め、徐々に日数を増やす。意思確認が難しい人もいます。

それでも好きな物に関わる仕事なら、短時間なら、職場環境との出会いがあれば、多様な就労は可能です。越谷市の地域適応支援事業を受けて下さる事業所での実習や、独自に開拓した職場での実習を重ね、様々な体験をすることが大事だといえます。

もう一つ大事なのは、市民のさまざまな活動に支えられた地域生活です。土日のスポーツ活動、世一緒で夕食を食べながらのおしゃべり会、毎週水曜午後のゲストトーク、就労した人がふらりと立ち寄ってのおしゃべり、それに就労定着支援事業。また、超短時間就労した場合には、仕事の後や仕事がない日のB型利用なども。

市はB型の併用を認めているので、独自のプログラムを持ちそれが本人に合っているのなら、B型事業

所同士が協力して支援していくことも大事かもしれません。

さらに、職業生活だけではない暮らし、親の高齢化、親亡き後の暮らしと一緒に考えてゆけるような関係を地域にひろげてゆくことも大切だと思います。就労したらゴールというわけではないのです。次に事例を紹介します。

元気な時も病気の時も知った上で 谷崎

この方は、就労移行に来た当初に、精神面で落ちてしまい、出てこれなくなりました。その後コロナ流行時、電車に乗れなくなり、同居の祖母が徘徊を始め、目を離せない状況も加わりました。

そんな中で越谷市障害者地域適応支援事業が始まり、近所の実習先があったので、参加しました。その企業はその後、就労前提の実習を受け入れてくれました。でも精神的に不安定な状況が続き、実習もできなくなってしまいました。でも、自分で働いた金で生活したいという思いがあり、就労移行を2年間延長しました。4年目後半、やっと精神的に安定し、折よく再開した地域適応支援事業に参加し、前回と同じ業で働かせてもらいました。

この取組はその企業が属する全国1500店のコンクールで大賞を受賞しました。就労が決まると超短時間就労になるので、せんげん台「世一緒」の利用継続を市と相談しなくてはなりません。本人の元気な

1994年8月24日第三種郵便物承認

時もそうでない時も知ったうえで受け入れていただける企業の存在はとても安心感があります。

(この他2事例は省略)

家族・地域、次の就労につなげたい

朝日

ありがとうございます。日々の実践例の報告、伝わってくるものが多かったと思います。続いて松尾さん、よろしくをお願いします。

松尾

職場に出向いて、あるいは本人と話して、長く就労出来るようにと思い悩んで、毎日仕事しています。

私自身も長く仕事をしてきた中で、どちらかというより福祉というより、人事や労務との関わりというのが私の理念です。

福祉と事業所の両面で考える、あまり福祉を前面に出さない、どちらの立場にも立って支援をしていくことが必要ではないかと思っています。

日常生活の中で仕事に影響することが多々あります。親の介護、親の病气、本人の体調不良、会社の中だけではなくそれらも心掛けて支援をしていく。

ただ、どうしても働けない人も出てきます。それを無理やり就労し続けさせるのは勧められません。次の就労につながるような離職支援が必要だと思います。本人にとっても、家族にとっても、企業にとっても重要なところだと思います。その積み重ねの中で、世一緒から紹介される人なら来てもらってもいいという話を企業からいただくこともあります。

就労しているご本人の中には、金銭管理や通常の申請などの認識はきちりあるけれど、書類等がどこかにいってしまっただけでなかなか市役所に提出ができない方もいます。社協の安心サポートに入ってもらって、支援員の人が書類に漏れがないように手伝ってもらえるようにつなぎました。お子さんの自立についても相談を受けています。

退職した人もいますが、そこで支援が終わりではなく、B型に来てそこから就労を目指すという方向でやっています。そういう流れにつながる「世一緒」はいい事業所だと思うのですが、なかなか新たな利用者がいないのが現状で、頭が痛いんです。心当たりの方がおられたら、ぜひ見学を勧めてください。以上です。

朝日

ありがとうございます。松尾さん流の定着支援ガイドブックみたいな感じで受け止めました。それでは日吉さんお願いします。

当事者が街に出て関係を仕事に

日吉

越谷市が障害者就労支援センターをつくる時に、言い出しっぺなんだから市から委託を受けないかと言われ、2004年にNPO法人格を取りました。たくさんの方がセンターのほうに相談に来て、ただその中で就労しようか、どうしようかという人もたくさんいて、そういう人たちが、はす向かいの本部事務所にだんだん集まって、かなりの人数が長らくいました。

そんなに沢山いたので、しらこぼと水上公園の花壇整備を請け負ったり。また、「仕事発見ミッション」と名付けて、障害当事者が毎週アポなしで2人一組で越谷、春日部、草加、松伏の商店、企業を訪問して、実習、見学をさせてもらえませんか。みんな嫌がるかと思ったけど、参加する当事者もたくさんいて、5、6年続きましたね。すごいパワーだと思いました。

あと、ずっと大事にしてきたんですが、地域にひらくNPOということで、地域のイベントに参加して、活動をPRしたり、販売したりしてきました。越谷花火大会では世一緒の店先で夜店をやったり。

特に、当事者たちが日替わりで当番して外から来た人に自分なりの言葉で世一緒のことや自分のことを語ってもらうことを大事にしました。そして、事務所から出ていろいろなイベントに参加する中で、いろんな福祉事業所や全く福祉の関係ではない人たちとのつながりが少しずつ広がっていきました。その一つが生活クラブであったりワーカーズコレクティブであったり。その関係の中で一緒に何かできないかということで、5、6年前、生活クラブの会員さん向けの介護人養成研修をやりました。

長い付き合いの中で先ほど谷崎さんの報告もあったように、いろいろな協力関係を築いていく中で、うちでお試して働いてみないかとか声がかかったり、外に向けて活動を広げて、いろいろな方たちと顔見知りになるところから関係性をつないで、あわよくばその関係性の中で職場参加を理解してもらって、協力してもらって、とやってきた19年でした。



朝日

日吉さんならではの視点で説明していただけたと思います。法定の事業だけでは実現できないことに取り組んできたことがわかります。では沖山さんお願いします。

制度の限界も踏まえ活用可能性も

沖山

2012年4月2日、職場参加をすすめる会が受託運営

していた就労支援センターに初勤務。本当に緊張してやって来ました。勉強会で知り合っていたが、どうやれるかと。そこで今日も見えている障害者スタッフの山崎有子さんに「今日から勤務ですか」と言われたのを覚えています。

今日もこういう形でNPOを振り返り、整理する機会をもらって発信し、また自分に帰って来ます。

せんげん台の同僚との関係は決して快適で緩やかではありません・・・自分がうるさいたちですから。でもそれを超えて働くという意味があると思っています。

当時、新越谷の西口に就労移行のWができて、どうつきあっていこうかと話題になったり、AというA型ができたところでした。

それが今は福祉サービス事業所がものすごくいっぱいできています。A型は東京は最賃が高いけれど、こころでやると安くなるというので。次々と立ち上げられ、お客さんは選び放題となっています。

相談支援事業は2019年からスタートしました。それまでは就労移行支援事業所の就労支援員として実習先を回っていました。当時の気持ちは、就労移行ですから2年間24ヶ月ずっとしてもらったらお金になる仕組みなんですけど、すぐ就労できるならどんどん押し出しました。何かあれば外へ出ました。動き回りました。高齢者3人でくたくたになって外に出ていきました。今は阿久津と2名で相談支援をやっています。

相談支援の来年度の事業計画はNPOの理念をどう具現化するかです。困難ケースについて連携をしていくことが大きな柱になります。

今年の10月に越谷市で基幹相談支援センターが始まります。困難ケースとして、市役所が考えるひな型は、障害の方がいて親が見ているが、親亡き後が大変、その時の対応ということです。

それに対して、本人は頑張っている、親が大変、本人がケアラーやりながら就労しているという例が数件あります。

また、家族全体が支えあう体制になっていて、病気が蔓延してくる、それを直そうという意識がない事例があります。「就労以前にあなたは何が大事?」「健康です」、「じゃ訪問看護を使いましょう、他に何が大事?」「お金です」。健康とお金、それが

1994年8月24日第三種郵便物承認先なんだけど後回しになってしまっている例です。10年前出会った時に比べて家族みんなが働いているんだけど、10年前の時より家族全体の大変さは増しています。これも困難ケースといえます。

そういう風に気づくことができるのが、相談支援の仕事です。生活保護の支援機関とかとも連携を取っています。こうした困難予備軍について、市にも伝えていきます。

法律も変わって、A型を使いながら超短時間もOKという状況になっています。サービスを多角的に使う利用者も増えてきています。そういう情報を伝えていきます。そういうことでワクワクします。当然これは中でもめることもあります。せんげん台はこれから多少やり直すという形でB型のみでやる方向です。

今法定雇用率がどんどん上がっていますが、それと連動して増えているのが雇用代行業です、そして官公庁のチャレンジ雇用、チャレンジ雇用では育てる姿勢がなく、3年使っておしまいがほとんどです。

でもこれらを便利に使っていく障害当事者もいていいと思うので情報収集しています。そして、世一緒として雇用代行や官公庁のチャレンジ雇用についても一定の見解をもっていきたいです。利用者がいて安定的に収入が入ってくればいいのですが、こうしたことにも果敢に取り組んでいきたいです。

相談支援の利用者は同じ場所にいた同士ではないですが、ホームカミングとかにも取り組んでいきたいです。利用者同士のクチコミ評価は、手厳しいものもあります。そこを生き抜いてそういうところにも触れていきます。そして便利に使えるようにしたいです。

私はこういう性格なのでうるさがっていますが、仕事だからするんです。本人が口に出しにくいニーズ、気づかないニーズについても伝えつつやっていたらいいと思っています。

仕事を辞めたいと思ったことは今まで一遍もありません。(以下次号)



せんげん台「世一緒」がこの4月からB型事業所になって職場参加をすすめています



(野菜の収穫)

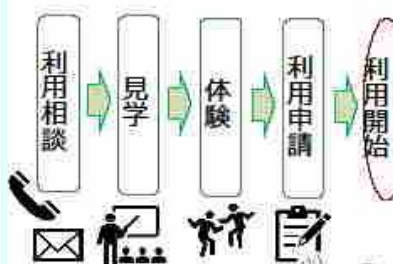
世の中、一緒だよ!

『障害のある人もない人も、
ともに街へ、職場へ』



(ミカノ祭り)

ご利用までの流れ



●そんなあなたにぴったりのB型です!

一般職場で体験・実習を経て就職、短時間就労しながら、職場の休みの日には地域での交流や生活づくりもしたい方

就労継続支援B型「世一緒」

時間をかけて作業や施設外就労しつつ、職場体験・実習もしながら、自分に合った就労と生活づくりをめざしたい方

- ・生活リズム作り、居場所作り
- ・楽しく取り組むグループワークで仕事体験
- ・さまざまな外部企業実習での職場体験
- ・一緒に行う仕事探しや会社訪問
- ・短時間(週20時間以上)、超短時間(20時間未満)で一応就労しながら、地域と交流して、生活の場を広げよう!

- ・生活リズム作り、居場所作り
- ・ゆっくり時間をかけて積み重ねる社会経験
- ・作業に応じて支払われる工資収入
- ・それぞれの適性と希望に合った就労をめざそう!

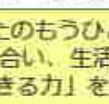
「世一緒」は、あなたのもうひとつの居場所。地域・職場の人と触れ合い、生活の場を広げることで、「働く力」「生きる力」を育むところです。



(市役所の横でも毎週野菜を売っています)



(職場体験中です)



(せんげん台のお店の前で毎朝10時から地元的新鲜野菜売っています)



世一緒はあなたの「働きたい、自立したい」を全力で支援します。まずはお電話か、ホームページからのメールで〜♪

2023年度会費、寄付ご納入ありがとうございました。(五十音順、敬称略)

【正会員会費】青木繁明、有竹和子、伊藤峰子、大塚真盛、越野操、小森陽子、佐藤秀一、澤則雄、清水泰代、巽孝子、巽優子、友堅由紀恵、野村康晴、長谷川顕、樋上秀、正木敬徳、松山美幸、谷塚祥子

【賛助会員会費】大武昭、佐藤恵美子、島根淑江、津崎悦子、森田譲二、山崎茂、山崎かおる

【寄 付】朝日雅也、小野達雄、大塚真盛、沖山稚子、野村康晴、樋上秀、日吉孝子、水谷淳子、谷塚祥子、山下浩志

【会費、寄付等のご納入は下記口座へどうぞ】

郵便振替口座：00150-1-463698

特定非営利活動法人障害者の職場参加をすすめる会



越谷花火大会夜店へのたくさんのご協力に感謝いたします!

写真は7月29日(土)花火打ち上げ直前の職場参加ビューロー世一緒(本部事務所)前の風景。ハローワークとの間の大通りは歩行者天国になり、4年ぶりの夜店に立ち寄る親子連れなどでにぎわいました。

PR不足にもかかわらず、風の便りで夜店再開をかぎつけ? 集合し店番をしてくれた障害者スタッフたちのパワーに脱帽! 同じく自主応援団のみなさまにも、物心両面でお世話になりました。

すいごごカフェ 8/9~9/13 1時半のゲスト



8月9日(水)

山下 浩志さん

当会事務局長

総合県交渉へ向けて

今年も8月24日、9月4日に行われる総合県交渉。全国でも稀れな交渉の起源と経過をふりかえり、今年のポイントを明らかにする。

8月30日(水)

樋上 秀さん

たそがれせ一緒管理人

ライトレールに乗って

誰もが暮らしやすい街づくりに取り組んできたが、越谷、埼玉に先じて実現した宇都宮のライトレール。その開業(26日)に立ち会った報告を。

9月6日(水)

山脇 雅史さん

カリンバ奏者

カリンバ 命の秋に

命の光をカリンバで。相手と世界と宇宙全体。直接はもちろん、遠隔でも送りたい。炎暑の日々も自転車で風のように過ぎて行く、あのカリンバが還ってくる

9月13日(水)

阿久津 和子さん

相談支援「せ一緒」

最初から分けなければ

介護支援専門員(ケアマネ)更新研修に思う。「自立支援」「地域生活課題の解決」「終末期における人間の尊厳」「意思決定支援」「権利擁護」難しい言葉が並ぶが…

すいごごカフェ/Lunch Café どっこいしょ

すいごごカフェ(第1、2、4、5水曜)もLunch Café どっこいしょ(第3水曜)も、NPO法人障害者の職場参加をすすめる会が主催する誰でも参加できるひろばです。Lunch Caféは12:00からキッチンとまとのカレー(コーヒー付き300円)が食べられます(要予約)。どの日も13:30~15:00 ゲストトークがあります。街で生きる障害のある人ない人、いろんな人が語ります。気軽にお立ちより下さい。人に歴史あり、街にドラマあり。048-964-1819(せ一緒)



越谷市のクラウドファンディングに応募しました！



越谷市がふるさと納税制度を活用し、NPO法人等の市民活動団体の魅力的なふるさとづくりに資する活動等を支援するため、クラウドファンディングを通じて、寄附を募集し、集まった寄附金を「支援事業交付金」として団体へ交付する事業が今年もスタートします。

寄附募集に当たっては、寄附金の使い道をより具体的にプロジェクト化し、これに共感していただいた方から寄附を募ります。

当会は、今年度の支援対象団体のひとつとして、このクラウドファンディングに応募いたします。

越谷市役所ホームページは下記参照。

https://www.city.koshigaya.saitama.jp/kurashi_shisei/kurashi/zeikin/kifu/NPOshienR5.html

すいごごカフェ、Love Shirakobato プロジェクトを柱とした「世一緒」の運営支援のために

寄付を募集する事業は、「すいごごカフェ」、「Love Shirakobato プロジェクト」を柱とした法人本部自主事業である「職場参加ビューロー・世一緒」の運営です。

現在、この運営に関し公的助成等は一切なく、毎月の家賃9万円を含めて、すべて会費、参加費、寄付によってまかなわれています。

7年間続く地域共生の市民寄席の継続、発展を



「すいごごカフェ」は、毎週水曜午後、トークゲストを招いて開かれる「市民寄席」です。もう7年間あまり続けています。

当初、ゲストの主力は、地域参加・職場参加を切り拓いてきた障害者たちでした。しかし、初めは聴き手だった支援者、家族、さらには地域の高齢者や若者などが、それぞれの生きてきた半生、そこから見えてきた地域の風景などを話してくれるようになりました。

「職場参加ビューロー・世一緒」の日常の管理は、障害者とサポーターのペア

アで行っていますが、彼らが「すいごごカフェ」の常連として、時にはトークゲストに、他の時には熟練の聴き手となって、カフェを成り立たせています。

しらこぼと笛 絵付け・販売を拡大しふるさとづくり



「Love Shirakobato プロジェクト」は、すいごごカフェの名トークゲストでもあり、越谷江戸雛を復活させた人形職人「ひな源」さんが制作した「しらこぼと笛」に、世一緒の障害者らが「ひな源」さん指導の下で絵付けを行い、みやげ物として販路開拓をしながら、天然記念物「越ヶ谷のしらこぼと」が戻って来られるふるさとづくりをめざしている活動です。

障害のある人たちが共に働き、共に生きる地域、そしてしらこぼとが再

び戻って来れる地域は、あらゆる人を含めて、生きとし生けるものたちが共にいることができる世界だと思っています。

目前の「超高齢社会」を共に生き、持続可能な社会への小さな一歩を踏み出すために、越谷市のクラウドファンディングを通して、「職場参加ビューロー・世一緒」へのご支援をお願いいたします。お知り合いにもお声かけを！ SNS 等での誘いもよろしく！

なお、寄付募集は9月～11月末の3ヶ月間のみですので、ご注意ください。

[【令和5年度】ふるさと納税でNPO等支援\(越谷市NPO等支援\) 越谷市公式ホームページ\(city.koshigaya.saitama.jp\)](#)

す い ざ ざ F L A S H

2023年06月07日(水)

●樋上秀さん(たそがれ世一緒の管理人)



かつて作成したバリアフリーマップ、トイレマップ、触地図の三点セットを振り返った。画期的だったが、有効活用されたとは言えず、存在もあまり知られていない現状は残念と語る。

日吉さんは、障害のある人もない人も共に市へ提言した際、体を運ぶことで僅かでも街が変わったと語る。トイレマップ作製時は、伝わりやすい表紙について、夜遅くまで議論した。澤さんは、障害当事者が街に出て変えて行くことは、きわめて貴重、希少だと述べた。バリアフリーによる助け合いの減少が隔離を深めたことについて、樋上さんは、ベビーカーは街に増えたが車いすはそう増えない。街はそう暮らしやすくなるが、マップが外出のきっかけになることが大事だと語る。

2023年06月14日(水)

●山下浩志さん(NPO 障害者の職場参加をすすめる会)



某国立大学医学部を除籍も、参加した「インターン闘争」という運動を通し、後年の地域の学校で共に学ぶ活動や障害

当事者運動に繋がる重要な縁が生まれた。

「医者はいっぱぐれない」という常識は、60年に国民皆保険になるまで必ずしも成り立たず、父は50年代半ばを過ぎて開業したが、診療報酬はきちんと入らなかつたという。60年代両親の学部入学への期待も背に心的な閉塞状況にあった。インターン闘争と遭遇し、医学、医療と向き合った成り行きは、紆余曲折を経て、結果として自己治療にも繋がった。

2023年06月21日

●増田由紀子さん(越谷市、介護福祉士)

4年前は介助職と障害者の親としての二つの立場

から地域の今を語った。今回のテーマは、「タンク☆ポ



ップ愛について語る」。増田さんがタンク☆ポップの良さについて語っていると、当のWakkoさんが登場。会場は盛り上がり、投げかけられるWakkoさんの

ラップめいた言霊。澤さんは「障害」の問題を錯綜するまなごしの光と影の中でみつめ直そうと質問を投げかけた。

2023年06月28日(水)

●友野由紀恵さん(Love Shirakobato プロジェクトメンバー)



3歳から18歳まで入所施設、それから20歳までを家の奥で生きてきた。1992年、わらじの会の生活ホームに入居。

学生や主婦の介助を得ながら共同の一人暮らしを始める。電動車いす利用を始めた時は、毎日道に迷っていた。現在は学生、主婦に加えて介護事業所を利用している。学生たちからは「ユキネエ」と呼ばれ、時には聞き役を務めることもある。

2023年07月05日

●飯田麻美さん(図書館ボランティア草加 LVS「にほんごひろば」部長)



2年前図書館で、ポスターを発見、応募。「にほんごひろば」では、身ぶり手ぶりや絵、ゆっくり大きく口を開いて伝

えるなど工夫が求められるという。

かつていじめにより双極性障害に追い込まれていた「社宅」、その閉ざされた人間関係と、大使館職員として過ごした東独の、人情味あふれる隣人達への思いについて語った。ドイツ語を教わった東独の人達への恩返し、そして通信制大学の16年間勉強していた図書館への恩返しとしての日本語ボランティアの活動の現在が語られた。

職場参加ビュロー一世一緒

2023. 8.1~2023.10.31 カレンダー

(2023年7月26日暫定)

2023年8月			2023年9月			2023年10月		
日	日中行事	ほか	日	日中行事	ほか	日	日中行事	ほか
1日	火	当番会議	1日	金	ミニTOKO	1日	日	耳鼻科除草
2日	水	うんとこしよ座学	2日	土		2日	月	
3日	木	たそがれ	3日	日	榎谷ごちやまぜの会	3日	火	当番会議
4日	金	らこぼろジエ	4日	月	総合県交渉2日目	4日	水	たそがれ
5日	土		5日	火		5日	木	東越谷ハザー物集め?
6日	日		6日	水	当番会議	6日	金	
7日	月	耳鼻科除草	7日	木	たそがれ	7日	土	
8日	火	榎谷水辺の市	8日	金	らこぼろジエ	8日	日	
9日	水	たそがれ	9日	土		9日	月	
10日	木		10日	日	耳鼻科除草	10日	火	榎谷水辺の市
11日	金		11日	月		11日	水	たそがれ
12日	土		12日	火	榎谷水辺の市	12日	木	らこぼろジエ
13日	日		13日	水	たそがれ	13日	金	
14日	月	盆休み	14日	木	らこぼろジエ	14日	土	
15日	火		15日	金		15日	日	耳鼻科除草
16日	水		16日	土		16日	月	
17日	木	ちんどんパレード	17日	日		17日	火	
18日	金	榎谷市教委話し合い	18日	月	らこぼろジエ	18日	水	職場参加を語る会
19日	土		19日	火		19日	木	たそがれ
20日	日		20日	水	職場参加を語る会	20日	金	らこぼろジエ
21日	月	耳鼻科除草	21日	木	たそがれ	21日	土	ハザー一値付け・仕分け?
22日	火		22日	金	らこぼろジエ	22日	日	耳鼻科除草
23日	水	職場参加を語る会	23日	土		23日	月	
24日	木	総合県交渉初日	24日	日	東越谷ハザー物集めポスターイベント	24日	火	
25日	金		25日	月	耳鼻科除草	25日	水	せんげん合すいご(さん)
26日	土		26日	火	わらじ夏合宿初	26日	木	たそがれ
27日	日	耳鼻科除草	27日	水	せんげん合すいご(さん)	27日	金	らこぼろジエ
28日	月		28日	木	たそがれ	28日	土	
29日	火		29日	金	らこぼろジエ	29日	日	ハザー一値付け・仕分け?
30日	水		30日	土	さいご(事務局会議)	30日	月	耳鼻科除草
31日	木		31日	日	たそがれ	31日	火	

の中は、リハビリを兼ねた1~3時間内の屋外のアルバイトです。グループでやるので、初めての方でも大丈夫です。は、素焼きの鳩笛の絵付けと、その普及・販売のための研修や営業活動です。

は、障害のある人や他の人々が日替わりゲストとなって、暮らしや仕事を語り継ぎます。あなたもどうぞ！は、たそがれ時、「酒の出ない居酒屋」。ふらりと立ち寄り食べたり食べなかつたり。

9月1日~11月末 クラファン特別月間です！ その他関係団体と連携したボランティア活動などもあります。

当会の本部事業は、専従職員を置く経済的余裕がないこともあり、さまざまな障害当事者たちが担っています。

「フレンドリー春日部とともに」代表が講話

職場・地域ひろがりつうしん

せんげん台せ一緒 浸水復旧作業がTVに



6月3日(土)午後の就労継続B型事業所せんげん台「せ一緒」の浸水復旧作業が、NHK サタデーウオッチ9で放映されました。この時大通りの水はひいていましたが、立ち往生した車がすぐ前に車道をかなりふさぐ形で取り残されていました。

梅雨の晴れ間に 越谷水辺の市



6月13日、越谷水辺の市が開催されました。写真中央はたそがれせ一緒管理人の樋上さん、両端はタンク☆ポップのお二人。7月8日(土)開催予定の「うんとこしょ」のチラシを掲げて。「この日は、数日前から『雨予報』が出ていたが、天気予報のいたずらは晴れと出て、暑いぐらいの日差しがさしていた。」(インターネット事業団・飯島さんがボランティアで作成しているHPより)

障害者たちが担った総会・シンポ向け準備作業



6月16日(金)に、6月18日の定期総会と記念シンポジウムに向けて資料集などの準備を行いました。担当はふだん Love Shirakobato プロジェクトとして活動している重度障害の友野さん、樋上さんら。



NPO 法人障害者の職場参加をすすめる会で代表理事を務めていただいている株式会社ニューオタニ社長・尾谷英一さんは、6月28日(水)にぼら春日部で開催された「経営革新塾しよう会/月例会」で「フレンドリー春日部とともに」という講話を行いました。

「障害のある人たちを雇用することは」と題して、親の高齢化等を含め今後の課題や、地域の人との関わりによる課題解決等について講話。また、課題解決のためとして、①地域に育ててもらう ②地域に入り込み、なじむ ③地域の方々にも慣れてもらう について問題提起しました。

うんとこしょ 一緒に歩くことから始めよう



7月8日(土)、「いっしょに歩くことからはじめよう！」障害があってもなくても<うんとこしょ>「誰もが安心して暮らせる地域づくり」一介護人養成講座 2023 年度第1回 <みんなでいっしょに歩いてみよう！>が小雨がぱらつく中で行われました。

5グループに分かれ、蒲生駅西口から生活クラブ生協越谷センターまで歩いた後、越谷センター2階の会議室で、テーブル毎に感想を出し合い、発表しました。杖歩行、白杖、ベビーカー、重心や型式の異なる手動車いす、電動車いす、それぞれの介助や歩行に様々な発見があり、街へ出て行くことの大切さを実感しました。

世一緒スタッフ日記



世一緒では、障害や病気その他の状況による働きづらさを、他の人々と共有し生きるために、世一緒に関わっている人たちを「スタッフ」と呼んでいます。サポーター(非常勤やボランティア)の支えを受けて、世一緒の当番(ピアサポート実習)や「語る会」、身近な地域で必要とされる仕事(花壇整備、除草、ポスティング)のグループワーク等もしています。元スタッフ等からの近況報告も紹介します。その後せんげん台に就労移行支援・就労継続支援B型多機能事業所「世一緒」が開所しました。こちらは制度により定められた職員がおり支援サービスを提供する場となっています。当会は定められた支援ももちろん、自主事業の世一緒(越谷)と連携して、多様な就労やピアサポートを支援し地域で共に生きる輪を拡げてゆきます。

ウッドデッキについて

高野 弘樹

初めて、見た時、何だろうと思いましたが。少しなれてくると少しずつできるようになりました。店とうに品物を選んだりして、がんばりたいと思いました。畑にやさいとかをとりにいって、洗ったりして安く売ったりして頑張っています。朝は早めにかかないといけないと感じました。あとは、なぜとか、をひかないでがんばりたいです。

さいきんの思いでーパンを見ない。

須藤 雅春

しごとについて、思うことについて、いつもどうりしごとと思う。いつも仕事のないようにたいしていつもでも思う。これからの仕事によりいつものとおりにせよと、おのりおのりこれまでの内よりのせよと、おのりおのりこれまでのしごとについて、

もどりしごとのつかいかたにつかひをみる

私と世一緒

水島 茂治

平成18年10月事故、中央線御茶の水駅にてあと二つでつくのが、たぶん朝のラッシュ時にドア開いたしゆんかん、おされて事故にまきこまれてたぶん頭全体強打しその後何がなんだかわからなくなり一時、自分の名前がでませんでした。事故から約4日ほどこんな状態になり約4日ほど目がさめとたん相手も自分もわからずじまいでした。やく一週間退院をし現在に到っています。

仕事について

佐藤 景子

毎週、月・木・金曜日、ウーリーの仕事に行っています。日によっていろんな作業があつて楽しいです。今年の8月の下旬で二年たちます。毎月第一金曜日、ボランティア行つてますので前もって仕事休みをとっています。

当番と生活について

友の 由紀恵

まいしゆうきんようびがよいしよのとうばんしています。しらこばとぶえプロジェクトではおみせにはなしをききについてふえあとどれくらいあるかはなしをしてかんにんいきました。ほかのおみせは、うれていないとはなしをしてきました。

街歩きについて

佐藤 秀一

ぼくは、時間があつたので一人でこんびに入つた。あいすを食べたくなつておかねをだそうとして歩いていたらころんでしまつた。

おきあがるうとしてもおきあがれなくて、そうしたら店長がきゆうきゆうしゃをよんで きゆうきゆうしゃがきた。山下さんがきてくれてよかつたです。

自分のせいかつのことではがくせいのときによるはシャワーよく(12)ですが、じぎようしよのときには人たいせいでにゆうよくをしてもらつてます。月、火、金、土、にゆうよくじぎようしよは人、水木、日ようびはシャワーよくやつてもらつています。これから学生にぜんしんせいかいじよにんはけんじぎようのかいしよのせいどをおたがいにかんとについていをおわせてやつているところです。これからはがくせいとおたがいにいづいれるかについていよていきめているところです。なつやすみのときにいきたいとはなししていたのでこれからやりませう。

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

